盧　中潔（筑波大学大学院／道徳教育学）

ニュー・シネマ・パラダイス

（原題：Nuovo Cinema Paradiso）

©1989 CristaldiFilm

- 種別：DVD（映画）
- 監督：ジュゼッペ・トルナトーレ
- 製作年：1989 年
- 製作国：イタリア／フランス
- 発売元：アスミック・エース
- 販売元：KADOKAWA 角川書店
- 時間：本編 123 分
- 音声：イタリア語
- 字幕：日本語
- 価格：￥1,890（税込）『ニュー・シネマ・パラダイス　完全オリジナル版』

あらすじ

戦争で父親を失ったトトは、村唯一の娯楽施設である映画館が大好きだ。毎日のように映写室に入り込んでは、映写技師アルフレードの仕事を覗いていた。母親とアルフレードの強い反対にもかかわらず、トトは映画に夢中になる。彼の熱意に負けたアルフレードは、やがて技師の仕事をトトに教えるようになり、二人は友情を育んでいく。トトは学校をやめ、軍隊に入っても、映画の道をあきらめず、最後に立派な映画監督になる。

Chapter
1. 小トトの出場／1’30
2. 映画の初覗き／2’17
3. 母の叱責／2’04
4. フィルムによる失火／1’43
5. 映画を教える約束／6’25
6. 壁の映画と火事／8’29
7. トトの恋／1’25
8. ローマでの兵役／1’37
9. アルフレードとの最後の会話／7’29
10. 葬式のための帰省／7’53
11. フィルムの鑑賞／3’12

シーン再現

＜トトは使用済みの映画フィルムを入手するため、アルフレードと粘り強く交渉する＞

トト：もらっていい？　　**トト**：もらっていい？　いい？

アルフレード：ダメ！　上映した後は元に戻さなきゃならないだ。

トト：なぜこれは元に戻さないの？　（使い残ったフィルムを指しながら）うん？

アルフレード：うん、戻す位置が分からなくなったんだよ。

トト：じゃ、もらっていい？

アルフレード：お前を殴る前に協定を結ぼう。これは全部お前にやる。だが、私が保管する。お前はここに来るな。

トト：僕のフィルムなのに、あんたが保管するの？

教育学の視点から

子ども時代の好奇心は、人生の宝物である。子どもの好奇心を夢へと導く教育が重要であることは言を俟たない。しかし現代社会においては子どもの興味よりも親の教育要求が優先され、夢を育てる土壌が壊されているのが現状である。では、どのようにすれば子どもの好奇心を夢へとつなげることができるのだろうか。

この映画の中で、主人公のトトは子ども時代に興味を持った映画の道をあきらめず、最後には有名な監督になる。最初はあまりにも映画に熱中し過ぎて母親にぶたれたり、映写技師アルフレードに映写室から追い出されたりしていた。だが、自分の好きなことを絶対に諦めないという強い意志に最終的にはアルフレードも心を動かされ、自分の技能をトトにすべて教えることになる。このようにトトの好奇心は父親代わりであるアルフレードにより大切には育まれ、ますます力強く大きな夢と動力になって、最後には立派な夢を実現した。もしアルフレードのやさしい愛がなければ、トトの夢は芽生えの時期に母親に壊されてしまったかもしれない。子どもの好奇心を夢へつなげるためには、支え、守り、育むことが大事であることをこの映画は伝えている。

アルフレードは映写技術を教えるだけではなく、トトの人生にもっとも強い影響を与えた人物である。時には父親として、時には友として、深い愛と優しさをもってトトを支え続けた。トトに好きな女性ができた時には、恋した王女を待ち続けた「ある兵士のストーリー」を聞かせ、何事もあきらめるべきではないということを伝えた。トトはアルフレードから多くを学び、支えられ、そして自分の人生を切り開いていく。

この映画が伝えるテーマは多様である。好奇心、夢、友情、愛情、諦めない…そしてこれらは一つにつながって、小さいトトを成長させていく。子どもはみな、夢と好奇心を持つ権利がある。そしてその好奇心を夢へと導くためには周囲の支えが重要であり、子どもが信頼を寄せる親と教師には、特にその役割が期待される。

子どもはこの世界で最も美しい蕾である。同時に最も脆い存在でもある。「これは危ないから、触らないで」という一言だけで、子どもの好奇心は潰されてしまうかもしれない。親や教師は、これらの大事な蕾を開花させる力と可能性を持っている。子どもの好奇心を大切に扱うこと、それは子どもの好きに任せて放任するということではない。子どもを尊重し、支持する態度を示しながら、適切な指導を行うというバランスが重要となる。本当に子どものために何かをしたいと思うならば、アルフレードの行動はヒントを与えてくれるだろう。

子どもに芽生えた夢を壊さないで

Information

※　本作品は 1989 年カンヌ国際映画祭審査員特別賞、アカデミー外国語映画賞などを受賞した。日本での単一映画館における興行成績は 2012 年まで破られていない。

【映画】子どもが大人との友情により成長する感動的な映画に次のものがある。

『レオン』（Léon）、製作年：1994 年、監督：リュック・ベッソン、製作国：フランス／アメリカ、本編 136 分、英語音声、日本語字幕。